



小学生の部 最優秀賞
みんなが喜ぶ動物園

佐々木 奏太 さん
(志津川小学校5年)



ぼくが知っている動物園とは、人間の都合に合わせて、動物を分かつたつもりで飼育しているだけのものだったようです。これまでの動物園は、動物を愛する心が足りず、動物のことをペットや家畜と同じようにしか見ていなかった。動物の生き生きとした表情を見ることができなかったのだそうです。

毎日悩み、いろいろな試みを繰り返していったそうです。ぼくは、その姿に人間としてのあたたかみややさしさを感じることができました。きっと飼育係の人たちは、動物といっしょにいると自然に笑顔になり、動物とのかかわりに喜びを感じていたのではないかと思います。また、動物も人間の仲間なんだという強い信念に変わっていったにちがありません。

のでした。一面雪におおわれるような自然環境が厳しい旭山という小山の動物園で、何が起ったのでしょうか。ペンギンは、海の中ではものすごいスピードで泳ぐそうです。旭山動物園では、その泳いでいる姿がユニークなことをいかけたペンギンを実感できる展示を工夫したのです。ぼくは、びっくりしました。また、もうじゅう館では、見上げるとヒョウの足裏の内球や寝そべる姿を見ることができ、あざらし館では、あざらしが垂直にもぐったり浮上したりする習性を見ることができるようにしたそうです。そこには、ここにこしたような動物の顔がありました。

かくなり、幸せな気持ちになるのではないかと思います。動物のことを考え、どうすれば自然の姿にもどしてあげられるのかについて、悩んだ末の結論だったのではないかと考えます。

書名：北の動物園で書いた12のお話 旭山動物園物語
著者名：浜なつ子
出版社：角川学芸出版



小学生の部 最優秀賞
「かわいそうなぞう」を読んで

高橋 ほのか さん
(荒砥小学校2年)



わたしは、どうぶつ園が大好きです。とてもたのしいところ。でも、そのたのしい場所よ、わたしが生まれるずっと前に、こんなに悲しい話があったと知り、とてもびっくりしました。なんでせんそうなんてするんだろうと思いましたが、わたしは、せんそうがどんなものなのかぜんぜん分からないし、そうぞうできないけど、テレビドラマとかを見てわることだというのには分かります。

食べさせてもらえなかったら、すぐおなかをすいて、とつてもかなしくなってしまうでしょう。そして、毎日、ないてすこすこ思っています。でも、トンキーとワンリーはエサをもらおうと、しいく係の人が来るとげいをします。やせてフラフラになりながらげいをするトンキーとワンリーのすがたをそうぞうして、わたしはなみだが出そうになりました。トンキーとワンリーは、どんな気持ちでしんでいたのかな。じぶんたちがなぜエサも水ももらえなくなったのか、なにも分からないまましんでしまったのですから。トンキーも、ワンリーも、ほかのころされてしまったどうぶつたちも、なにもわるくないのに・・・。わるいのはせんそうなのに・・・。

上のどうぶつ園には、しんどうぶつのためのおほかがあるそうです。わたしは、いつか上のどうぶつ園に行きたいです。そして、トンキーとワンリーやほかのたくさんのおいどうぶつたちのために、おいのりをしたいです。「みんな、つらかったね。くるしかつたね。でも、もうせんそうなんて、おこさないからね。あん心して天国から見えていてね。」と言ってあげたいです。



書名：かわいそうなぞう
著者名：土家 由岐雄
出版社：金の星社